

WEEKLY SIGNAL

2019年5月31日(金) 1476号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	6/3(月)	6/4(火)	6/5(水)	6/6(木)	6/7(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 1,400	+ 1,000	トシ	トシ	トシ
財政他	+ 38,000	△ 56,000	△ 21,000	+ 4,000	△ 5,000
資金需給	+ 39,400	△ 55,000	△ 21,000	+ 4,000	△ 5,000
主要要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(2年)	消費税・法人税・保険揚げ 普通交付税交付金	国債発行(10年) 交付税特会発行・償還		
オペ期日	共通担保 △ 600 CP等買入 △ 100 補充供給 200	成長基盤 △ 6,700	成長基盤 △ 100		
オペスタート	共通担保 + 700 国債買入 + 7,500 ETF買入 + 300	成長基盤 + 4,300			
(日本)	法人企業統計調査(1-3月期)	マネターベース(5月) 営業毎旬報告(5月31日現在)		対外・対内証券投資 (5月26日-6月1日)	毎月勤労統計(4月) 景気動向指数(4月)
(海外)	米 ISM製造業況指数(5月) 米 リッチモンド連銀総裁の講演 米 セントルイス連銀総裁の講演 欧 ユーロ圏製造業PMI(5月)	米 ニューヨーク連銀総裁の講演 米 ハウエルFRB議長の挨拶 米 製造業受注(4月) 米 耐久財受注(4月) 欧 ユーロ圏失業率(4月) 欧 ユーロ圏CPI(4月)	米 アトランタ連銀総裁の講演 米 地区連銀経済報告 米 ISM非製造業指数(5月) 欧 ユーロ圏総合PMI(5月)	米 ダラス連銀総裁の講演 米 ニューヨーク連銀総裁の講演 米 貿易収支(4月) 欧 ECBが政策金利発表 欧 ドラギス連銀総裁の会見	米 サンフランシスコ連銀総裁の講演 米 雇用統計(5月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.020
SPOT 3M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、397兆6,300億円から始まった。28日には、財政等要因や国債買入を主に増加し、400兆2,200億円となり初めて400兆円を超えた。週末となる31日には399兆9,000億円となった。
無担保コールON物加重平均金利は、週初△0.041%から始まった。前週と比較すると調達サイドが徐々に慎重な姿勢となったことから、同金利は低下基調となり、月末となる31日には△0.058%となった。ターム物は1~2W物を中心に△0.04%~△0.025%での出が見られた。
来週は国内では、5月のマネターベース(4日)、4月の景気動向指数(7日)、海外では米地区連銀経済報告(5日)、ECB政策金利発表(6日)、5月の米雇用統計(7日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.005 ~ 0.000
TDB 3M	△0.200 ~ △0.130
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆4,100億円、週間償還額(約1兆1,700億円)に対し発行超となった。発行市場は、月末発行は期落ち程度の発行に止まったが、連日複数の業態での大型案件がオファーされ、活況なマーケットとなった。市場残高は30日時点で20兆2,600億円弱となり、先週末(20兆35億円)から増加した。発行レートは、投資家やディーラーの旺盛な運用ニーズに変わりにくく、0%からマイナスでの出合いであった。
来週の償還総額(6/3~6/7)は、3,400億円程度となっている。発行市場は、月初で新規発行が少ないと見込まれるため、横ばい程度の発行額と思われる。発行レートは、投資家は0%以上であれば運用ニーズが強く、引き続きマイナスから0%近辺での出合いとなろう。CP等買入オペが、4日に2,500億円程度オファーされる予定である。

<TDB>

今週の国庫短期証券市場は、世界的な債券需要の高まりを受け、先週対比でやや強めの地合となった。31日入札の3M835回債は、最高落札レート△0.1503%(前回債△0.1423%)、平均落札レート△0.1587%(同△0.1499%)と前回債から低下した。セカンダリー市場では3M物で△0.158%程度での出が見られた。
来週は6日に6M、7日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GC取引は週初△0.075%~△0.085%で始まり、週央にかけて△0.10%近辺まで低下。月末初物となる31日受け渡しは、前場△0.11%~△0.12%から出合いが付き始めたが、後場△0.08%台まで上昇した。短期3Mの発行日となる3日受け渡しは△0.075%~△0.085%が出合いの中心。SC取引では10年352回債のbidが多く、週前半は△0.10%台前半。国債買入オペが実施された3日受け渡しは、△0.10%台半ば~後半で多く取引された。他2年399・400・401回債、5年137・138・139回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352・353・354回債、20年164・165・166・167・168回債、30年59・60・61・62回債、40年9・10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。